

我が国の伝統音楽研修講座の様子を紹介します

8月20日(月)と8月21日(火)に、茨城県民謡協会及び東京藝術大学音楽学部同声会茨城支部から講師の先生を招き、民謡の歌唱と、箏・三味線・尺八のグループに分かれ和楽器の演奏に取り組みました。初めて触れる楽器に四苦八苦していましたが、最後はみんなで合奏するなど、充実した2日間になりました。

講義・実技「我が国の伝統的な歌唱」



茨城県民謡協会の講師の先生方と一緒に「こきりこ」、「磯節」、「ソーラン節」を歌いながら、旋律の流れやこぶしの付け方などを体験しました。受講者からは、「合唱との違いや表現の面白さを感じ取ることができ、貴重な体験となりました。」等の感想が寄せられました。

実技「箏の奏法」



〔箏〕

樋口美佐子先生から、右手の爪の扱い方や弦の弾き方、左手の押さえ方など実技を通して学びました。受講者からは「乃木調子に親しんだことがなかったので、『かごめかごめ』がとても新鮮でした。」等の感想が寄せられました。

実技「三味線の奏法」



〔三味線〕

梅辻理恵先生から、調弦や三味線の構え方、演奏の仕方について教えていただきました。また、地唄も取り入れ、その発声法を学んでいきました。三味線の実技を通して、子どもたちへ伝統文化を伝え、残していくことの大切さを強く実感することができました。

実技「尺八の奏法」



〔尺八〕

樋口景子先生から、構え方や息の流し方などを教えていただきました。音を出すのが難しい楽器ですが、音を変えるための息の出し方や指穴を開ける微妙な調整など、実技を通して受講者はその感覚をつかんでいきました。